

神の全能の力、永遠の憐れみ、そして恵み

ある聖書では、詩篇 139 篇は神の全知全能（すべてを知っていること）と全宇宙（宇宙のどこにでもいること）の宣言として記述されている。しかし私は、この詩篇の最後にある、神の永遠にして計り知れない、慈悲と報われざる好意（あるいは恩寵）を強調したい。私は説教の前に本文を読まない。なぜなら、ほとんどの詩篇を皆さんと一緒に読みながら、説教を進めていくからである。

主はすでにあなたを知っておられる

詩篇 139:1 を読む ¹主よ、あなたはわたしを究め、わたしを知っておられる。ダビデ王によって書かれたこの詩篇は、ダビデの外面的な行動だけでなく、その内面を知っておられる神の全知全能を実感していることを主に語るころから始まる。紀元前 1,010 年、旧約聖書と神との個人的な関係に基づくダビデ王の神学あるいは神理解では、主はアブラハム、イサク、ヤコブの神であった。

彼の神学は、イエスが地上に来られる千年も前のことである。しかし、イエスが紀元 30 年に律法学者を貶めるために用いたダビデの預言的な言葉（詩篇 110:1）がある（マルコ 12:36-37）：

³⁶『神が私の主に言われた。「わたしがあなたの敵を あなたの足台とするまで、わたしの右に座っていなさい。」』

は、ダビデの内面を直撃したに違いない。彼の預言的な著作は、来るべきメシアの主である預言者的な息子という明確な感覚を彼に与えたに違いない；しかし、イエスが肉を持って地上に来られた後、私たちが持っている明確な定義ではない。

主は時を超えてあなたを知っておられる。

詩篇 139:2（朗読） ²座るのも立つのも知り、遠くからわたしの計らいを悟っておられる。あなたは「私がいつ座り、いつ起きるかを知っておられます。

主は、私たちが何をしようとしているのか、それをする前に知っておられる！ダビデは“遠くから”と言っているが、彼は親しい交わりの中で、神の臨在の特別な啓示を知っていた、¹¹命の道を教えてください。わたしは御顔を仰いで満ち足り、喜び祝い右の御手から永遠の喜びをいただきます。（詩篇 16:11）。神は見えておられるだけでなく、私たちの心を読み、私の考えを理解しておられる。悪魔の子らがこの超自然的な力を、本物であれ、まやかしであれ、主張するとき、私たちはとても不快になる。その違いは、光と闇の違いだ！神は私たちをととても愛しておられる。神は私たちの心に悪意など持つ

ておられない。神は徹頭徹尾、善である！ クリスマンたちよ、私たちの神の信頼に足る御性質を喜びなさい。ダビデは、イエスが神の多くのことを世に明らかにする前に、このことを学んだのだ。

彼はどんな細部も見逃さない。

(詩編 139 : 3-4 節を読んで)³あなたは、私の行く道と、私の横たわる姿を、つぶさに見ておられます、私のすべての道を熟知しておられる。

⁴私の舌に言葉が出る前から、見よ、主よ、あなたはすべてを知っておられる。神の全知全能は、私たちの旅路、休息場所、そして口にする言葉にまで及んでいる。(詩編 139 : 5-6 節を読む) ⁵あなたはわたしを後ろにも前にも囲み、御手をわたしの上に置かれた。

⁶その驚くべき知識はわたしを超えあまりにも高くて到達できない。

ダビデは、自分を守ってくださる主の力を知っていた：主は私の背と前を持っておられます！主に対するこの確信は、主が全能であり、全知全能であることをダビデが知っていることに基づいている。ダビデは、それを信じている、それは私にとってあまりにも素晴らしい、あまりにも高い、と認めているが、それに到達するために自分の心をうまく整理することができない。しかしまた、ダビデは主が計算や人間的な説明を超えた慈悲深い方であることを知るようになる。

神は霊であり、どこにでもおられる。

さて、ダビデは主の遍在を宣言する。(139 : 7 節を読んで) ⁷どこに行けばあなたの霊から離れることができよう。

どこに逃れば、御顔を避けることができよう。あなたの御霊から、私はどこへ行くことができますか。あなたの臨在から、私はどこへ逃げられますか？

ダビデは罪人や反抗的なビリーバーへの指示として、「あなたの臨在から逃れよ」を用いている。ダビデ王の心は主の近くにいたいと願っていた。しかし、大きな罪との関係から離れることが、彼の人生に起こった。

ヨナは主の預言者の一人であったが、主に反抗し、主の指示通りに裁きを宣べ伝えるためにニネベに召されるのを避けるために船で逃亡した。交通の発達した現代(ボストンから東京まで12時間)において、私たちは、主がイスラエルに力強く現れたとき、神の民でさえも、その地方の地理的思考が、いかに彼らを惑わし、主が天と地を創造されたことを忘れさせるものであったかを知らない。ヨナは、タルシシュに向かって航海しているときに、神が彼を飲み込もうと魚を遣わされたので、非常に劇的な発見をした。ヨナ書 1:17-¹⁷ さて、主は大きな魚を用意して、ヨナをのみ込ませました。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいました。神は魚の腹の中にいたヨナとともにおられた。

世を裁くイエスの再臨の日が間近に迫る中、神は懐疑的な人々に神の聖典を信じさせようと、多くの奇跡を見せられる。2021年6月11日、マサチューセッツ州ボストンのケープコッド湾沖で、ロブスター漁師がザトウクジラに飲み込まれた。その様子は記録さ

れ、生き残った男性はアメリカのテレビ番組でも証言した。実際にこのような事故は少なくないが、これは大都市での出来事であり、多くの報道がなされた。神の裁きから私たちを救うために、神の聖書について考える人がいることを祈るばかりである。

詩篇 139:8-9-10 (朗読) ⁸天に登ろうとも、あなたはそこにいまし 陰府に身を横たえようとも 見よ、あなたはそこにいます。 ⁹曙の翼を駆って海のかなたに行き着こうとも ¹⁰あなたはそこにもいまし 御手をもってわたしを導き 右の御手をもってわたしをとらえてくださる。

天国あるいはシェオール、墓場、主はそこにおられる。

自殺.....。誰でも？

自殺すれば神から逃れられると思っている人がいる。それは大きな間違いだ！先に述べたように、主は全地上に遍在しておられる。ダビデは、神の御手が遠く離れた地でも.....アメリカでも.....大阪でも、自分を導いてくださることを知って喜んで！しかしまた、あなたの右の手はわたしにつながっているのです」(10節)。その何年も後、イエスは(ヨハネによる福音書 10章 29節)で、サタンが神のものすべてに敵対する世界において、クリスチャンが永遠の安全を得ていることを再確認している：彼らをわたしにお与えになったわたしの父は、すべてにまさる方であり、だれも彼らを父の御手から奪い取ることはできない。

詩篇 139:11-12 を読もう。わたしは言う。「¹¹闇の中でも主はわたしを見ておられる。夜も光がわたしを照らし出す。」¹²闇もあなたに比べれば闇とは言えない。夜も昼も共に光を放ち 闇も、光も、変わるところがない。

現代社会では、聖書の時代の日没後の真っ暗闇を想像するのは難しい。いくつかの大都市には、石油を燃料とする街灯がいくつかあった。しかし、夜の農場や森を訪れたことがあれば、真っ暗闇に圧倒されるような感覚を覚えるだろう。このようにダビデは、主が常に寄り添ってくださることを確信している。これは、聖なる神にとって決して同じにはなり得ない霊的な暗闇ではなく、物理的な暗闇であることに注意してください。さて、ダビデは主に対して、自分を、そしてすべての人々を創造された主の個人的な配慮について語っている。13-16節を読んでください；¹³あなあなたは、わたしの内臓を造り 母の胎内にわたしを組み立ててくださった。 ¹⁴わたしはあなたに感謝をささげる。わたしは恐ろしい力によって 驚くべきものに造り上げられている。御業がどんなに驚くべきものか わたしの魂はよく知っている。 ¹⁵秘められたところでわたしは造られ 深い地の底で織りなされた。あなたには、わたしの骨も隠されてはいない。 ¹⁶胎児であったわたしをあなたの目は見ておられた。わたしの日々はあなたの書にすべて記されている まだその一日も造られないうちから。たは母の胎内で私を編まれた。これらの聖書の箇所は、あまりにも多くの人々が自分の体について教えられてきた自己嫌悪を払拭する素晴らしいものだ。神は人間の体を発明し、創造されたのだから！そし

て、神は私たちが生まれる前から、私たちの生涯を知っておられることにも注目してほしい。私たちの創造に関するこれらの真理が私たちに与えてくれる慰めは、本当に主を信じる者だけに与えられるものだ。天地創造の事実は同じだが、イエス・キリストを信じる信仰によって神との生きた関係を持つのは、生まれ変わったクリスチャンだけなのだ。これは基本的に、ダビデ王と神との関係と同じである。クリスチャンの皆さん、**自分がより長く生き続けるために多くのエネルギーとお金を費やすことを心配するのは、まったく意味がありません！**私が言っているのは、必要な医療行為ではない。しかし、もしあなたがクリスチャンなら、**生きることはキリストであり、死ぬことは益である！**フィリピの信徒への手紙1章21節) なぜ自分の命を延ばしたいと思うのか。それは、罪人を永遠の裁きの火から救い出す主イエスのために、より実りある働きをするためではないか。

この説教の準備をしているとき、聖霊は私を書斎から離れ、ミッション・パートナーからいただいた鮮やかな黄色のひまわりの美しい花瓶を見るように導かれた。リビングルームの窓から差し込む明るい日差しの中で..... 私はドロシーに言った：『彼らは死に瀕しながらも、神に栄光を捧げている！私たちもそうなるように、神に祈ります：私はドロシーわたしたちは、生きるのも主のために生き、死ぬのも主のために死ぬ。だから、生きるにしても死ぬにしても、わたしたちは主のものなのである。枯れていく中でも、神に栄光をささげている！御言葉にあるように、私たちもそうなるよう神に祈ります：(ローマ14:8)にあるように、生きるにせよ、主に生きるにせよ、死ぬにせよ、主に死ぬにせよ、だから、生きるにせよ、死ぬにせよ、私たちが主のものなのです。』

教会よ..... あなたは本当に、この古い肉体にとどまるために、イエスと共にいることを先延ばしにしたいのですか？

詩編139：17-18を読む¹⁷あなたの御計らいは

わたしにとっていかに貴いことか。

神よ、いかにそれは数多いことか。

¹⁸数えようとしても、砂の粒より多く

その果てを極めたと思っても

わたしはなお、あなたの中にいる。

信じられますか？神はあなたのことを考えるのが大好きなのだ！あなたのことが頭から離れない。あなたは花婿イエスに擁された花嫁なのだ！聖霊によるダビデもそのような関係だった。これは世俗的にロマンスと呼ばれるような一夜の浮気ではなく、主はあなたが眠りから覚める毎朝そこにおられるのだ。

今、ダビデは、私たちすべてがそうであるように、墮落した人間という現実と直面しなければならぬ。

詩編139：19-22節を読む

神よ、あなたが悪者を殺してくださるなら；
血を流す者たちよ、わたしから離れなさい。
20 彼らはあなたに悪口を言うからです、
あなたの敵は、あなたの名をむなしく用いるからです。
21 主よ、わたしはあなたを憎む者を憎まないか。
あなたにむかって立ち上がる者を、わたしは憎まないか。
22 わたしは彼らをとこしえに憎む；
彼らはわたしの敵となった。

旧約聖書の wicked（邪悪な）という言葉と、sinner（罪人）とを区別する価値があるかもしれない。

邪悪とは、生命の価値を全く考慮しない、創造主に全く反する極端な罪深い行為である。罪人とは、（旧約聖書では律法の下での）神的な生き方の目標から外れた者のことである。

ダビデは、神の御心に適う者として、神に悪人を殺すように求めた。しかし、神がすべての民族、アブラハム、イサク、ヤコブからなるヘブライ人に御自身を現すために選ばれた民族以外の邪悪な者に対する神の憐れみを私たちは見ることができる。神は預言者ヨナをイスラエルの最悪の敵である邪悪な国ニネベに遣わされた。復讐を望んでいたヨナの不興を買い、ヨナが差し迫った裁きを説いた後、彼らが悔い改めたとき、主は憐れみを与えられた。イスラエルの敵を何千人も殺したダビデ王のような神の指導者たちは、神の行いに導かれて、当時邪悪と呼ばれていた罪人たちが悔い改めることはないだろうと、神が見限ったのだと考えるようになった……。だから、旧約聖書では、罪を取り除く唯一の方法は、罪人を取り除くことだったと言っても過言ではない！これはヨナが考え、望んでいたことである。ニネベは、特にヘブル人にとっては、とてもとても邪悪だった。しかし神は.....。

ヨナ 3:10-ヨナ 4:1-3 を読むと、ヨナが間違っていたことがわかる！そして神は、信者でさえ信じている以上に憐れみ深い方なのだ。

新約聖書（2 コリント 9:15）にあるように、¹⁵言いつくせない賜物のゆえに、神に感謝する。（その賜物とはイエスである！）イエスが地上に来られたので、神はすべての人、完全に墮落した罪人に対する御心を変えられ、もはや罪人と悪人を区別されない！なぜなら、「¹³主の御名を呼び求める者は、すべて救われる」。〈ローマ 10:13、そして大艱難の間にも、ヨエル 2:31〉。イエスが十字架でなされたことは、全人類との信仰による神の契約の最新かつ最善で永遠の遺言であるだけでなく、神は、私たちすべてのために十字架でなされた御子の御業に合うように、不変の御心と永遠の知恵を変えられたのである。

だからもちろん、ダビデはメシアの未来に関する預言者ではあったが、イスラエルに対する預言者ではなかったが邪悪な者を殺すよう神に求めるだろう。そして、流血の民である彼らに、彼から立ち去るようにと命じた。

ダビデは、自分の身の安全だけを考えていたのではなく、主に逆らう者たちに対する怒りに燃えていた。(v. 22)

ダビデは（聖書を読めば一目瞭然だが）非常に感情的な人物だったと思う。今、彼はレースカーのギアを変えている。彼は、邪悪な者を殺すよう求めたこの同じ主の前にへりくだる！

詩篇 139 : 23-24 をお読みください；

²³神よ、どうか、わたしを探して、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを知ってください。 ²⁴わたしに悪しき道のあるかないかを見て、わたしをとこしえの道に導いてください。

- 23節 ダビデはすでに、神が自分を探し出して知っておられることを知っていた(詩篇 139:1) と述べている。”ではなぜ？ “ 誰かが尋ねるかもしれない。”主よ私を探してと祈るだろうか？ “ このような考え方は、一部の罪人を地獄への道に引き留めるかもしれない！ 彼らは本当にこう言っているのだ： ”神はすべてを知っておられるのだから、私は神と話す必要はない！ 神は全知全能のお方だから、(私の同意なしに) 私を救うことができるのだ ”と。
- このように、神についてのこのような態度は、神が罪人の人生に押し入り、彼らを自分のロボットにする蛮行のように見える！..... 主のしもべダビデとヨナに対する主の心を示そうとする私の弱々しい試みでさえ、このような神の不当な判断に反論する。 人間関係とは、相手がすでに知っていることを尋ねることである..... 相手が何を感じ、何を考えているのかという疑念を取り除き、真実を伝えることである。 結婚しているクリスチャン同士、そして私たち全員、私たちの JESUS と共に、このことを学ぶ必要がある！神は、エデンの園、イエスの十字架、埋葬、復活、昇天、そして邪悪な世界にイエスの福音を伝えるために、初期のクリスチャンたちをほとんど確実な死に追いやった！ というのも、主はご自身の無限の愛を満たすために、主が創造された人類との関係を望んでおられるからだ！
- 神は、私たちがダビデのように祈ることを愛してくださる。私たちは恋人であるイエスに、最も深い闇の秘密を託します。私たちのために死んでくださった方に、私たちは何も隠したくありません。
- 不安な思いはいつも、恐れと、私たちの主イエスを本当に信じることができるのかという不信仰によってもたらされる。ダビデもそのことを知っていた。ダビデは、神の御霊が私たちの罪深い心を、イエスをより多く（ダビデにとって主の臨在をより多く）用いて直すことを愛しておられることを知っていた。

- 24 節 痛みの道 ダビデは、神の敵を剣で殺すよう神から命じられた。彼は、妻バテシバとの姦淫の罪を隠すために、最高の将軍ウリヤを殺害した後、その罪を確信した。預言者ナタンは主からダビデ王の罪を知らされ、彼に立ち向かった。サムエル記上 12 章 7 節から 14 節に記されているように、『あなたにイスラエルの王に油を注ぎ、サウルの手からあなたを救い出したのは私である。8 わたしはまた、あなたの主人の家と主人の妻たちをあなたに預け、イスラエルとユダの家をあなたに与えた！9 あなたはなぜ、主の目の前で悪を行い、主の言葉を軽んじたのか。あなたがたは剣でヒッタびとウリヤを打ち殺し、その妻を自分の妻とし、アンモンの子らの剣で彼を殺した。10 それゆえ、あなたがわたしを軽んじて、ヒッタびとウリヤの妻を妻としたゆえに、あなたの家から剣が出ることはないであろう。』11 主はこう言われる、『見よ、わたしはあなたに対して、あなたがたの家の者から悪を起こし、あなたがたの目の前で、あなたがたの妻を奪い、あなたがたの伴侶に与え、彼は白昼、あなたがたの妻と寝るであろう。12 実に、あなたはひそかにそれを行ったが、わたしはこの事を全イスラエルの前で、太陽の下で行うであろう。』13 そこでダビデはナタンに言った、“わたしは主に対して罪を犯しました”。するとナタンはダビデに言った、「主もあなたの罪を取り除かれた。14 しかし、あなたがこの行いによって、主の敵に神を冒瀆する機会を与えたので、あなたの生んだ子も必ず死ぬであろう。」
- ダビデ王は悔い改め、バテシバによる赤ん坊の息子の死と一族の剣という罰を謙虚に受け入れた…。アブサロムの謀反などなど。ダビデは、ナタンが彼に立ち向かった後、主から多くのものを与えられていた自分が、今、主に恥をかかせていることを知った。 (詩篇 51: 7, 10, 11) 7 ヒソプでわたしを清めてください；
 そうすれば、わたしは雪よりも白くなる。
 10 神よ、わたしのうちに清い心を造り給え、
 わたしのうちに堅固な霊を新たにされたまえ。
 11 あなたの前からわたしを捨てないでください。
 あなたの聖霊をわたしから取り去らないでください。
- あなたの臨在から私を追い払わないでください。あなたの聖霊を私から取り去らないでください。清らかな心と安定した新しい精神を創造してください。(詩編 51 : 11—12) ダビデが神に懇願したのがわかる。ダビデは主の清さと力を味わったが、自分の罪によって心に打ちのめされていた。ダビデの友でもあった主に対して恥ずべき罪を犯し、自分を切り離れたのだ。ダビデは、主には神の栄光のために彼の心を変える全能の力があることを知っていた。

余談で恐縮だが、もしダビデが新約聖書の十字架の側に存在していたら、神はもっと憐れんでくださっただろうか、と考えるクリスチャンなら誰もが思うに違いない。ダビデ

は自分が地獄に値することを知っていた！しかし、創世記からヨハネの黙示録に至る聖書の教えでは、神は常にリーダーたちに他の信者たち以上のことを要求される。例えば、サムエル記上 12 章 14 節におけるダビデ王の罪は、主の敵に神を冒瀆する機会を与えた。

- **旧約聖書** このことは、旧約聖書のアブラハムの信仰契約においても、新約聖書のイエスの血の契約においても、イスラエルにおいて真実であった。イスラエルの王は、メシアであるイエスの継承系統と預言の成就にあった。王が罪を犯すことは、神に背くだけでなく、神の契約の約束にも背くことであり、忠実に信じて主に従おうとしていた残党として、神に選ばれた民の目から見た信頼を弱めることになる。ダビデは来るべきメシヤの苦難と多くの約束に関する預言者であったので、この罪はイスラエルに対する神の計画に対する傷以上のものであった。また、その結果、ダビデ一族が分裂し、ダビデの子孫から生まれた忠実な王たちの上に、主を王とする純粋な貴族制、真の神権政治を貫くという神の計画は終わりを告げた。
- **新約聖書** 主だけが「もしも」のシナリオを知っており、おそらく主は私たちに教えてはくれないだろう！しかし、主イエスの教えは、特に新約聖書の教会において、聖霊が使徒たちにこれらの新しい聖句を吹き込むことによって、クリスチャンが罪を繰り返すことは、天国でビリーバーとしての報酬を得られない危険性があることを強調している。強調されているのは、ライフスタイル、つまり生き方であり、主イエスの前で悔い改める心をもって、一度や複数回の罪を犯すことではない。
- (1 Cor 6:9b /Beck) を読む。このことを誤解してはならない： 性的な罪に生きる者、偶像を礼拝する者、姦淫する者、他の男と性的な罪を犯す者、盗む者、食欲な者、酒に溺れる者、中傷する者、強盗する者は、神の国に入ることはできません。
- ダビデ王が一度だけ墮落したこと（戦いの中でウリヤ殺害を企てた邪悪な企てで数ヶ月に及んだこと）は、比較にならないかもしれない。主は、ダビデ王がそうであったように、主との絶え間ない関係の中で生きたいと願うクリスチャンに好意を寄せておられる。恩寵から墮落することは、神に対する罪、あるいは多くの罪というよりも、むしろ選択であろう。人格的に最も弱いクリスチャンでさえ、イエスに自分の罪を告白し続けることができる。さらに重要なことは、祈るように、罪との闘いについてイエスに伝えることだ： **私は罪を犯さないほど弱い者です。主イエス。** ダビデが書きながら学んだように。ダビデが詩篇 51 篇のすべての言葉を書き記しながら、神に祈り通したことを想像してみよう。詩篇 51 篇 17 節) を含めてお読みください。神が求める犠牲は砕かれた霊である。砕かれ、砕かれた心を、神よ、あなたは軽んじません。

- ダビデ王が書いているように、彼は主がまだご自分の聖なる宮で動物のいけにえを受け入れておられることを知っている。しかし、ダビデの個人的な主、アブラハム、イサク、ヤコブの神との関係は、彼の心が神の心に叫ぶことを必要とした。どのような宗教活動も、このような愛にとっては外面的すぎる。この神と心を通わせることこそ、イエスを信じるすべての人にイエスが与えてくださったものなのだ。だからこそ、ダビデ王は旧約聖書の中で際立っていたのだ。
- 兄弟たち、あなたがたの多くは、教師になることを避けるべきです。なぜなら、私たち教師は、ほかの人たちよりも厳しい裁きを受けることを知っているからです。(ヤコブ 3:1/ベック)。神の御言葉、特にイエス・キリストの福音を教える教師は、教会であるイエスの王国では、イスラエルのような神権政治における王のようなものである(これを書いている今、「OUCH」と「AMEN」)。ああ、聞いてください... OIC 教会協議会..... 権威ではなく、真の王、イエスを代表する者として、人々(羊と罪人)の心に影響を与える。
- このように、使徒パウロはその務めの中で、常に神からの過大な恩寵を強調していた。(1 コリント 15:9-10/ベック) 私は使徒の中でも最も低い地位に属しており、使徒という称号を名乗るにはふさわしくないからです(意味 - 肉のイエスを見た。宣教師であるセント・ワンだけではない)。私はかつて神の教会を迫害したことがあるので、使徒の中でも最も低い身分に属し、使徒という称号を名乗るにはふさわしくありません。しかし、神の、身に値しない恩恵によって、私はこのような者となったのである。身に値しない恩恵は、何のために与えられたのでもない。私は彼らの誰よりも広く労苦してきたが、それは私ではなく、神の無償の恩恵が私とともに働いていたからだ。パウロは主の律法の下で、殉教者ステパノを殺害した。(使徒 7:59) ステパノが主を呼び求め、「主イエスよ、わたしの霊をお受けください」と言ったので、彼らはステパノを石で打ち続けた。使徒 8:1) そしてサウロは、彼を死刑にすることに心から賛成していた。また、(使徒言行録 9.1) では、サウロは、なおも主の弟子たちに対して殺意を抱いていた。
- サウロは後にルカ博士によって宣教日誌(後に使徒言行録と呼ばれる)を書く際にパウロと呼ばれるようになり、サウロの新しい宣教地である異邦人には、パウロ(ギリシャ語)がサウロ(ヘブライ語)であるように、明らかに文化的に受け入れられやすくなった。そのような罪深い背景を持ちながら!なぜ使徒パウロはそこまで大胆になれたのか、とあなたは尋ねるかもしれない。それは、彼が主の弟子たちを憎み、殺人に至るまで憎んでいた主との愛の関係であった。もしあなたがクリスチャンなら、実は心の中で同じことをしてきたはずだ。しかし今は、パウロのように

神の御座の前に罪のない者として立っている。だから

- だから、パウロは自分の救いと神の赦しを信じて、大胆に宣教することができた：
- しかし、私たちや天から来た天使が、私たちがあなたがたに宣べ伝えた福音以外の福音をあなたがたに宣べ伝えたとしても、その者はのろわれよ。(ガラテヤ 1:8/KJV) パウロは、あまりにも多くのクリスチャンが見逃していることを、自分の心の奥底で主を感じていた(心と心のコミュニケーション、だと思ふ)。パウロの非難する裁きは、最も深刻な罪は感覚的なものではないことを示している。すべての罪はイエスの命を奪った。しかし聖書は、パウロの言葉や、ダビデ王が亡くなった後のイスラエルの悪行に対する主の反応から、それとは反対のことを教えている。神にとって最も痛ましい罪、神の心を最も痛く傷つけるものは、神の聖なる御性質に対する個人的な侮辱である宗教における偽り、例えば別の福音書や、神の心や魂の啓示に関する偽りである。神は、神を崇めるべき罪深い種族に対して、ご自分をとて傷つきやすくしておられる。この事実は、この先の最後のポイントでも繰り返そう。
- **その他の新約聖書**
- 私は、聖書が明らかにした、献身的でありながら自らの罪と闘っていた何人かの神の人物を指摘した。彼らはそれぞれ、主に抵抗する民(イスラエル)、あるいはまだクリスチャン信仰の未熟な民(使徒パウロの聴衆のほとんど)を率いていた。私は、あなたがこれらの人々との関係において、個人的な救い主としての神の心を見ることができるよう祈っている。旧約聖書に登場するこれらの人々(ダビデ王、ヨナ、アサフ)、そして新約聖書に登場するこれらの人々(使徒パウロ、最初の殉教者ステファノ)は、主の計り知れない憐れみと恵みを現す生涯を送った。
- これらの聖書の箇所は、あなたが栄光のイエスを見るまで、これらの神の男たちがしたように、イエスに近づいて歩む信仰を励ますためのいくつかの約束である。彼は私たちの神でもある！
- 朗読 (ヨハネ 6:37) 父がわたしにくださるものはみな、わたしのもとに来る。
「私は絶対に追い出さない。」
- ギリシャ語原典新約聖書(M&M)「私は決して背を向けない」...
- 英語とは異なり、ギリシャ語の二重否定は意味を逆にするのではなく、テキスト情報を非常に強調する。魂の病めるクリスチャンのための肉とは。

- **読む (1 ヨハネ 2:1/ベック)** -もしだれかが罪を犯すなら、私たちのために父のみもとに嘆願してくださる方がおられます—義なる方、イエス・キリストです。

聖書の新約聖書には、御子イエスと御父の関係がわかりやすく明記されている。 私たちがこのことを知的な真理とするだけでなく、三位一体-全能の主なる神-についてそれほど明確なイメージを持っていなかったにもかかわらず、彼らが罪に陥ったとき、旧約聖書で啓示されたとおりに主に真剣に祈り、神が彼らに主の奉仕における喜びと力を回復された神の人たちのように、神に祈ることを神は禁じられている。 御子イエスを通して神が私たちの願いを聞いてくださることを、私たちはどれほど確信できることだろう！

- しかし、信者は誘惑に負けて、考えや行動で罪を犯すかもしれない。 **第一コリント 10. 13**) 人にありがちな誘惑のほかには、あなたがたを襲った誘惑はない ; 神は忠実な方であり、あなたがたが自分のできる範囲を超えて誘惑されることをお許しにならない。しかし、誘惑とともに、あなたがそれに耐えることができるように、逃れる道も備えてくださる。

- 私に聖書のミルクを与えてくれるクリスチャンたちの中に、この「よくできたステーク」が含まれていたことをとても感謝している。私は魔術師でした...とても邪悪な心を持っていたので、イエスが私を探してくださったことに驚いています。キリストにある赤ん坊だった私は、**(コリントの信徒への手紙第一 10 章 13 節)** を暗記するのが賢明だった。私はそれをしばしば使わなければなりませんでしたが、神は今も忠実です。

- **神は全知全能であり、全能であり、遍在であるが、その心はとても傷つきやすい！** 神は、神を慕うべき罪深い種族に対して、ご自分をとても傷つきやすくしておられる。私はこの事実を、最後の言葉として繰り返したい。というのも、私たちは、私たちが強さとして見ているものに反しているように見えるものを本当に理解することはできないからだ。しかし、ダビデ王や使徒パウロのような人々、そして主との親しい歩みに恵まれた何百万もの人々は、この輝かしい真理の一部を学んだ。すべてのクリスチャンもそうであるべきだ。 **詩篇 73:21-23 を読むと、**ダビデ王の聖歌隊のリーダーであったアサフが主と親しい関係にあったことがわかる：

- **21 私の心が憤慨し**

わたしの心は刺し貫かれた、

- 22 その時、わたしは無感覚で、無知でした；**

わたしはあなたの前に獣のようであった。

- 23 それにもかかわらず、わたしは絶えずあなたと共にいます；**

あなたはわたしの右の手を握っておられます。

24 あなたは御告げをもって、わたしを導かれます、
わたしを栄光のうちに迎え入れてくださいます。

- それにもかかわらず、詩篇 73:23 でアサフは、自分の心を完全な平安に保つために、自分の能力よりも主の測り知れない憐れみを信頼した。時には、それができないこともある！ 苦い思いは、最も誠実なクリスチャンを主の喜びの緩慢な死と信仰の死へと導く！ 私たちは苦い思いの原因に目を向け、最初から最後まで私たちの信仰を与えてくださるイエスに目を向けることをやめてしまう。ヘブル 12:2/ベック)。私たちの救いは、私たちのために買い取られたものです...しかし、私たちは信仰をもってこの苦しみから立ち去らなければなりません...そして、苦しさは信仰を殺します。アサフは恨みに負けて神に叫んだ。私たちは、苦い思いが自分に向いたとき、謙虚にそれを認めなければならない。私もそうした。神が現れたのだ！
- 神が全能であることは、同時に慈愛に満ちていなければ何の意味もない。このような神の分不相応な好意...助言...そして力に対する確信が主を喜ばせ、私たちの未来は安全で確実なものとなる...栄光のうちに受け入れられているイエスに会うまでのすべての道のりが！
- GLORY

参照した聖書

特に断りのない限り、すべての参考文献は NASB である。

(NASB)-新アメリカ標準聖書、ゾンダーバン/ロックマン財団、1977 年

(ギリシャ語 NT) - ゾンダーバン ギリシャ語・英語インターリニア・ニューテストメント

(NASB/NIV) マウンス&マウンス著、ゾンダーバン、2008 年。

(ベック) ウィリアム・F・ベック著、アメリカ訳、レイク印刷